



巻頭言



エレミヤに思う — 神が備えてくださる「将来と希望」 —

一般財団法人太平洋放送協会
理事長 矢木良雄

目を高く上げて

「わたし自身、あなたがたのために立てている計画をよく知っている——主のことば——。それはわざわざではなく平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ。」(エレミヤ書二九章11節)

コロナも終わり、今年こそクリスマス礼拝には安心して集まれる、そんな期待を持っていました。第8波はどうなるのでしょうか。この3年間、教会もまた伝道団体もコロナによってさまざまな制約を課せられ、忍耐の期間を通ってきました。

第五回日本伝道会議のテーマは「危機の時代における宣教協力」でした。まさかこんな形で危機が訪れるとは思っていませんでした。振り返ってみると日本の教会も過去に多くの危機体験をしています。

私の父の故郷は山形県米沢市です。年上の兄や姉は戦時中に米沢に疎開し、そこで育ちました。米沢と言えば上杉家、越後から会津百二十万石にそして徳川によって米沢藩三十万石に減転封されます。今も米沢市には城跡と上杉神社が残っています。数年前にJEFの総会が山形で開催され、終わっ

てから研修ツアーがありました。川上直哉先生のガイドで400年前のキリシタンたちの殉教の史跡巡りをしました。

当時、米沢藩以外にも、伊達家の仙台藩など、東北には多くのキリシタンが存在していました。しかし家光の時代になって禁教の幕命は厳しさを増し、上杉家としてもキリシタン家臣をかばいきれず処断へと追い詰められていきます。1629年、藩主の信望篤い重臣の甘糟右衛門とその一族43人が処刑されることになりました。藩から送られた使者が甘糟家の屋敷に到着し、処刑が明日行われることを告げると、甘糟右衛門は彼ら使者たちを丁重に迎え、その配慮への感謝を伝えます。その夜、甘糟家の屋敷に集まった二人の息子たち家族、家令たちを前に右衛門は「神は私たちに殉教の道を与えてくださった。これこそ神のあわれみ、恵みである」と、神のために死ぬことができることを喜び、夜を徹して感謝の祈り会を持ったと言います。翌朝、甘糟家の人々は藩の役人たちに先導され、右衛門を先頭に女性たちや子どもたちも含めて43名が北三原の処刑場に向かいます。沿道に出た人々に家老がこう命じます。「ここにおられるのは罪人ではない。高貴な志のために殉じ

ようとされる方々である。土下座をしてお送りするように」人々はまるで大名行列を送るように道端に土下座して見送ったと伝えられています。

こうした殉教の出来事を父から聞くことはありませんでしたので、とても驚きました。でも父は米沢を誇りに思っていたようで、こうした出来事が背景にあったのかもしれませんが。

冒頭の聖句はあまりにも有名なみことばで、捕囚の民に書き送った手紙の一節で、祖国南ユダ王国が滅亡の危機に瀕している中で記されたメッセージです。エレミヤ自身、彼の語る厳しい警告のことばゆえに激しい反対を受け危機の中にありました。エレミヤは涙の預言者、嘆きの預言者と言われます。しかし決してうつむいていたわけではありません。危機の中で彼の目は常に高く、主に向けられていました。その目には「将来と希望」が見えていました。だからこそ三一章で「永遠の愛」を語り、「神の傷みの神学」を引き出し、新しい契約によって新約時代にまで視野を広げることができたのです。

危機の時にこそ、神が備えてくださる「将来と希望」を見る目を与えられたいものです。



JTJ宣教神学校 (超教派)

https://jesustojapan.com

〒110-0015 東京都台東区東上野 5-11-9
TEL.03-3842-3412 FAX.03-3842-3415
✉ jtj@jesustojapan.com

JTJ 宣教神学校では、「穏健な福音主義と偏らない超教派」「神学なき宣教は逃走、宣教なき神学は空虚」「だれでも・いつでも・どこでも」を教育理念に掲げ、今年で創立32年になります。



JTJ 30周年記念礼拝 (JTJ YouTubeチャンネルで視聴可)



これまでに1800名余りの卒業・修了生を日本各地に送り出し、現在も100名を超える学生が在籍しています。

多くの教団教派から、実力派の講師たち60名以上が、魅力あふれる講義を展開しています。

学生の受講形態も、教室での受講のほかに、インターネット (オンデマンド)、Zoom (ライブ/録画)、ブルーレイディスクでの受講を、各人のライフスタイルにあ

総動員伝道

http://www.gospeljapan.com/sodojin/

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-1 OCC #614
Mobile: 090-1761-8811
✉ sodoinendo_0411@yahoo.co.jp

南米のコスタリカで大きく用いられていた伝道活動があった。深みの伝道 (Evangelism in Depth)。巡回伝道者本田弘慈氏が米国伝道に行っておられたので、コスタリカへ脚を伸ばした。その働きを視察し、用いられている教材を手になさって帰国された。早速「深みの伝道研究会」が組織され、伝道の方策・手段を研究した。教材を翻訳し、日本に合った聖書的伝道を目指して「総動員伝道 研究委員会」が発足した。現在は「総動員伝道」という名称になっている。

①すべての人に福音を。②すべてのクリスチャンを「良いあかしびと」に。③すべての教会の成長を。これら3つの目標を掲げて活動が開始された。

四国総動員伝道を皮切りに、神戸、九州、西日本、沖縄、東北、北海道、関西、近畿、ビリー・グラハム



北国街道を歩いて宣教活動



東京オリンピック トラクト配布 (東京 原宿にて)

大会と共に関東一円で実施されてきた。超教派の伝道のため、関東では首都圏イースターのつどい、全国祈祷運動、断食祈祷聖会が開催されている。巡回伝道者本田師とともに、全国各地で「クルセード伝道」を展開。信仰の決心者には、「大いなる救い」という小冊子を用いて個人伝道をし、救いの恵みに導いた。さらに「キリストにある豊かな生活」を用いて、信仰の成長と教会生活の大切さを指導している。

プロテスタント宣教150周年を記念した年から、Walk with Jesus を始め、江戸から京都 (東海道) を歩いて、宣教師のスピリットを体験し、トラクトを配布した。いまま全国各地の「街道」を歩いて宣教活動の一環として実施している。長野冬季オリンピックが持たれた時には、Sports Outreach Japanという活動をし、オリンピック開催国にもでかけ、観戦のために訪れた日本人にトラクト配布をし、日系人教会との交わりを持った。何とかして、一人でも多くの人を主の恵みに導きたいと祈り、活動している。

伝道団体連絡協議会のこの1年 (2022年活動報告)

今年は引き続きのコロナ禍で幕開けとなり、2月にはロシアとウクライナ戦争が勃発いたしました。まさしく国内外ともに多難な幕開けとなりました。そのような中にあっても、私ども伝道団体連絡協議会 (伝団協) は「福音を伝える使命を共に！」の旗印のもと、加盟団体の皆さまの相互理解・協力により、キリストの愛と救いを伝える働きを行っていくことができました。使命を共有いただけましたことを感謝いたします。

2022年を振り返り、主な活動の1つ報告をさせていただきます。

1月17日 (月) にZoomによるオンライン形式で、『ニューイヤーフエスティバル』を開催させていただきました。

当日は、伝団協 会長 姫井雅夫牧師の挨拶とお祈りで始まり、クリスチャン・バイブル・シンガー 八木容子様に賛美をしていただきました。また、中川健一牧師 (ハーベスト・タイム・ミニストリーズ代表) に「2022年に教会が直面する7つの課題」と題し講演をいただきました。

新規加盟団体の「日本国際ギデオン協会」様と「アンテオケ宣教会」様、をご紹介させていただき、ご挨拶をいただきました。

加盟団体の「ユース・ウィズ・ア・ミッション」様、「太平洋放送協会」様、「新生宣教団」様より、活動発表をしていただきました。

年初に当たり恵まれた時を共有できました。感謝いたします。



十字架のかけに いずみわきて

4月11日 (月)、第38回伝道団体連絡協議会総会がZoomにて行われました。開会礼拝として、姫井雅夫会長がみ言葉を取り次がれました。Iテサロニケ5章1節から11節が開かれ、交わりの大切さについてのメッセージをいただきました。議案は全て満場一致で承認いただきました。

引き続き加盟団体相互間の協力体制づくりや、他団体とも今後関係を築き、加盟団体を増やしていくことを確認いたしました。

かねてからの念願でありました、『伝道団体連絡協議会』の案内パンフレットが

が完成し、団体外の方々も含め、配布させていただきます。伝団協を知っていただくツールとしてお用いいただければ幸いです。



久々に、伝団協のホームページがリニューアルされました。これから、最新の情報を掲載し、お伝えさせていただきます。ご期待ください。どうぞ一度ご覧ください。

10月10日 (月)、久しぶりに一堂に会して『秋のフェスティバル』を開催いたしました。お茶の水クリスチャン・センター8Fチャペルを会場とし、「小坂忠さんに感謝して」と題し、在りし日の映像を拝見しつつ恵まれた賛美の時を持つことができました。当日は、奥様のミクサムレコード代表取締役・小坂叡華様にご列席いただき、忠先生との歩みをお証していただきました。

アンテオケ宣教会の大田裕作総主事より「基講義」をしていただきました。アフターコロナ、ウィズコロナの新しい伝道のあり方を中心にメッセージをい

いただきました。

また、「福音ネットワーク伝道協力会」様、「日本国際ギデオン協会」様より、ロープレによる伝道活動の紹介をしていただきました。久しぶりの対面でのフェスティバル、恵まれた一時となりました！



新生宣教団のホームページに「伝団協の紹介」をアップしていただきました。是非ご覧ください。



機関誌「協力」も、この12月号をもちまして第98号となりました。発行に際しましては、会員の皆さまにはいつもお力添えをいただきました。今後とも良き機関誌となりまよう努めてまいります。よろしくお願ひ申し上げます。

駆け足で伝道団体連絡協議会のこの1年を振り返らせていただきました。本年も大変な状況の中、共に宣教の働きができましたことを主にあつて感謝いたします！

どうぞ良いクリスマスをお過ごしください！



近況& 祈りの課題

vol.98
2022年12月

福音ネット伝道協力会

(1) インターネット配信伝道番組「この指とまれ」が、世界の人々に聴かれるように。また「コロナ禍のオンライン録音でも、高クオリティーのドラマを制作できるように」。

(2) 5大コンテンツの充実：①「この指とまれ」現代ドラマ②「新約聖書ドラマ」イエスに出会った人々③「旧約聖書ドラマ」神を見た人々④「日本語版」解き放たれた人生⑤「聖書・名作朗読」* Biblica You Version「新旧約」。(*)は制作完了

(3) 同業者(出演者)現在8名(出演男性3名、女性3名、計6名、編集女性1人、運営委員 男性牧師1人感謝。更に参加者が与えられるように)。

(4) 伝道協会員団体へ、宣教協力ができるように。TWR、BBNへの番組提供、PBAのBRIDGEに提供準備中感謝。URL: <https://konoyubi-drama.lindofree.com/>

日本YWAM

2022年が始まった時、日本YWAMの活動拠点は11箇所(二七〇、仙台、長野、東久留米、台東、横浜、高槻、神戸、大分、鹿児島、沖縄)でしたが、12月時点で愛知が増え、2023年には福岡、広島、函館での開拓に向けて準備中です。祈り続けてきた短期滞在ビザも開かれ、宣教チームの入国も始まりました。各活動拠点にはそれぞれ特色があり、主の導かれるユニークな方法で福音を伝えています。また、DTS(弟子訓練学校)が、従来からある沖縄に加え、2023年には横浜、高槻の合計3箇所で開催します。約5ヶ月間の

短期学校は世界中で行われ、多くの信仰者の成長に用いられています。沖縄、横浜、高槻の全てが日本語と英語のバイリンガルで行われます。主の時、大きな収穫の時が日本に來ています。収穫のための働き人が送られ育てられていきますように。また日本YWAMのスタッフ一人ひとりが、真の謙遜さと聖さをもって、主と主が愛される日本の人々のために仕えることが出来ますように。そして日本中にある地方教会と共に手を繋ぎ、用いられていくことが出来ますように。

ハンガリー

●世界各地で飢餓、貧困に苦しむ人々への支援が進みますように。平和がありますように。

●クリスマス募金キャンペーン(コン)民主共和国での活動支援が用いられ、必要が満たされますように。(目標: 800万円)

●ウクライナでの戦争が終わりますように。新たにウクライナへ派遣するスタッフの守りと導きのために。オテッサの船越宣教師の教会が行うHOPEプロジェクト(地域への物資支援、宣教、教会学校、冬対策など)のために。日本に來たウクライナ避難民の日本での生活のために。

●若いスタッフが与えられますように。(東京、愛知、大阪、沖縄の各事務所)

日本国際キレオン協会

一人々をイエス・キリストの救いに導くために—

国際キレオン協会とは、世界200以上の国や地域においてクリスチャン・ビジネスマンおよび専門

職業人により組織され、相互の交流と神への奉仕のために働く団体です。多くのキリスト教派の教会の支援により、1899年の創立以來、全世界で20億冊を超える聖書を、ホテル・病院・刑務所などに配布し、また自衛官・警察官・学生・生徒・医療に携わる方々に贈呈してきました。

教会のご葬儀の際、伝道のためにキレオンの聖書を用いていただく方法を紹介させていただきます。牧師先生や教会員の方やご遺族からお証やお励ましをいただき、感謝しています。

私たちは、み言葉の持つ救いの力によって、人々の魂がイエス・キリストとの出会いに導かれ、その方が教会へと足を運ばれることを心より望んでいます。

当協会のホームページ <http://www.gideons.jp.org> もどうぞご覧ください。

この働きのために祈り、お支えいただけますことを、心よりお願い申し上げます。

総動員伝道

2023年も祈り、宣教、教会、献身を目標に活動を展開しようとしています。

第25回断食祈禱聖会

2023年1月9〜10日 ZOOM

テーマ: 二御霊によって歩もうウクライナ、献身者、教会、信徒養成を課題としてあげ、祈禱課題を提示していただく。

主催: 連根バプテスト教会
サテライト会場: 赤坂教会
講師: 近藤高史氏、稲福祐一郎氏、古波津保秀氏、平野耕一氏
ズームで行います。
ID: 8612566585
パスコード: 24n1k1

PBA 太平洋放送協会

●全国各地で放送伝道の働きを進めておられる教会(協力会)の上に、主の励ましがありますように。新たに

協力してくださる教会が与えられ、必要が満たされますように。

●ラジオ「世の光」テレビ「三ツライオン」他をおして、多くの方々にキリストの愛と希望を届けることができますように。

●番組制作の上に、主からの知恵と助けが与えられますように。

●「聖書チャンネル BRIDGE」
<https://www.seishobridge.com/>

ハーベスト・タイム ミニストリーズ

お祈りをお願いします。(1)「中川牧師の一日一章」第3巻(文学書)が12月に発売されます。第1巻(モーセの律法)、第2巻(歴史書)同様、大いに用いられるようにお祈りください。「中川牧師の一日一章」は、聖書通読と日々のデポジションのためのガイドブックとして、全5巻発売予定です。(2) 毎週一回、ルカの福音書の講義メッセージをネット上で配信しています。また、月に一回、「神の国と悪魔の国」というタイトルで、テーマ説教をネット上で配信しています。(3) 毎週火曜日「16分わかる! 聖書」という動画を配信しています。求道者や初心者を対象に短いメッセージを語っています。

アンテオケ宣教会

お祈りとお支えを感謝いたします。9月末に45周年記念トリートを開催し、歴代の総主事ご夫妻、現元理事、現・元宣教師の先生方と再会し、主の御名を共に崇めることができ感謝いたします。

1. 大田総主事の健康のために。8月の手術以降リハビリに励んでおられますが、首の痛み、痺れ、強張りなどがなかなか取れません。癒しと回復のために。

2. 赴任準備中、ピザ待ちの宣教師た

ちに主が道を開いてくださるように。

3. タンザニアで教育宣教師を必要としています。興味がある方は事務局にお問い合わせください。

4. 宣教師たちがどこにいても、主の守りとお支えと祝福のうちに、撒いた福音の種を刈り取れますように。

5. 45周年記念事業が祝され、それらの働きが導かれますように。

以上、どうぞよろしくお願いいたします。

東京ブレイヤーセンター

宣教の拠点「祈りの家」として、305日礼拝と祈り会を継続し、TPCラーニングという学びの会を適時開催しています。また、クリスチャン団体の活動を支援するため、貸室を提供しています。どうぞ御利用下さい。

おもな祈りの課題は、

日本CGNTV

1. 次世代への信仰継承のために制作している次世代向け番組と、YouTubeコンテンツを通して、次世代の伝道が進み、働き人が起こされ

るように。

2. 無教養サポーターのためにCGNTVの24時間放送が、無教養や福音の霊的サポートが必要な場所での福音の通路として用いられるように。

3. スタッフのために

東京と大阪にいるスタッフ19名(韓国11名、日本人8名)が賜物に油注がれて、喜んで主と日本の教会に仕えていくことができるように。

日本キリスト伝道会

第53回 日本伝道の幻を語る会が2022年8月21日にオンラインで開催しました。

以下の日本キリスト伝道会公式YouTubeにてご覧いただけます。
https://youtu.be/b6ic_8aU9Gc
内容: 敬称略

ミクタムミニストリー

「コロナ禍の2020年には新しく賛美映像エム・ワークショッププロジェクト(MWorship Project)が生まれました。私たちは4月29日に天に凱旋した創設者故小坂忠のビジョンのバトンを受け取る者が日本中に起こされていくよう励んでいます。

新年交歓会

2023 開催のご案内

賛美・各団体活動紹介
ゲーム・歓談のひととき

1/16(月)

14:00~16:00

OCCビル北館4階にて

◎ 参加団体申込み受付締切

2023年1月7日(土)

◎ お申し込み・お問い合わせ

岸本茂雄 宛
skishimoto.mat548@gmail.com
CC伝団協: dendankyo@gmail.com

ブース出展お申し込みの団体様は、締切までに別途お申し出ください。